

研 究 分 野	漁場環境	部 名	漁場環境部
研 究 課 題 名	大型クラゲ等有害生物出現調査及び情報提供事業		
予 算 区 分	水産総合研究センター費（委託）		
試験研究実施年度・研究期間	H19～H23		
担 当	和田 由香		
協 力 ・ 分 担 関 係	水産振興課・漁業情報サービスセンター		
〈目的〉 大型クラゲの出現・分布状況を、調査船による洋上調査、県内漁協・漁業者からの聞き取り等により迅速に把握し、漁業者等に周知し漁業被害を最小限にする。			
〈試験研究方法〉 1. 洋上調査 試験船により、海洋観測時や沿岸資源調査時に目視調査を実施し、結果は漁業情報サービスセンターへ報告した。 2. 聞き取り調査 県内の漁協からの出現情報を入手し、漁業情報サービスセンターへ報告した。また、深浦町新深浦町漁業協同組合所属の定置網漁業者 1 名に依頼し、大型クラゲの入網状況について日報の提出を受け、結果を取りまとめた。 3. 水温ブイによる水温観測調査 深浦町大戸瀬漁業協同組合前沖に設置済みの自動観測ブイにより、連続観測を実施した。収集されたデータは、電子メールにより漁業情報サービスセンターほか関係機関へ配信した。			
〈結果の概要・要約〉 1. 洋上調査 試験船開運丸及び青鵬丸により、本県日本海側沿岸から沖合域において調査を実施した。調査は 20 年 9 月～21 年 1 月に計 9 回実施したが、大型クラゲは確認できなかった。 2. 聞き取り調査 調査期間中、大型クラゲの出現情報の確認はできなかった。 3. 水温ブイによる水温観測調査 水温のピークは、1m層と 20m層で 8 月第 3 半旬、10m層で 8 月第 2 半旬にあった。8 月第 5 半旬に気温の低下を受けて水温も低下したが、9 月上旬に各層 24 度まで再び上昇し、それ以後は季節と連動して降温が続いた。			

〈主要成果の具体的なデータ〉

1. 洋上調査

表1 試験船による調査結果

月 日	試験船名	海 域	水深	表面水温	個体数	傘径	調査方法
9月3～4日	開運丸	日本海観測		19.5～25.3	0	－	目視
9月30～10月2日	青鵬丸	日本海観測		17.0～22.1	0	－	目視
10月15日	青鵬丸	出来島沖	181	20.2	0	－	目視・トロール
11月1～2日	開運丸	日本海観測		13.6～19.8	0	－	目視
11月11日	青鵬丸	高山沖	188	18.7	0	－	目視・トロール
11月27日	青鵬丸	出来島沖	102	16.2	0	－	目視・トロール
12月9日	青鵬丸	十三沖	74	15.5	0	－	目視・トロール
1月8日	青鵬丸	日本海観測		12.5～12.8	0	－	目視
1月27日	青鵬丸	出来島沖	104	11.3	0	－	目視・トロール

2. 聞き取り調査

なし。

3. 水温ブイによる水温観測調査

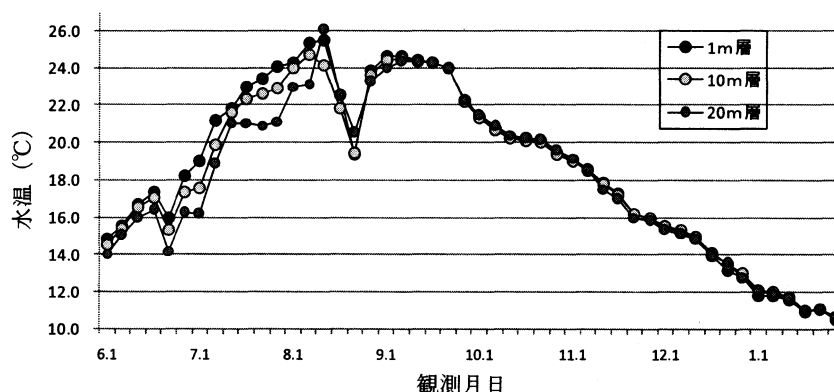


図1 水温観測ブイによる水深別水温観測結果

〈今後の問題点〉

出現量に年変動があるため、状況により調査体制を変える必要がある。

〈次年度の具体的計画〉

実施要領に基づき、平成20年度と同様の調査を行う。

〈結果の発表・活用状況等〉

出現調査結果及び水温観測結果は、ウオダス No. 1617～No. 1657 に掲載された。また、漁業情報サービスセンターへ報告された情報は、東北海域の出現予測情報や水温の短期変動の把握における基礎データとして活用された。